

資料1

(様式)

地球惑星科学委員会 IGU 分科会 ICA 小委員会の設置について

分科会等名：IGU 分科会 ICA 小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、 主体となる委員会に○印を付ける。)	地球惑星科学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	<p>ICA (国際地図学協会)は ICSU のメンバーであり、2019 年には東京にて 1980 年以来二度目の ICC (国際地図学会議) および総会を開催する。</p> <p>我が国は 1961 年より ICA に加盟し、日本学術会議を通し 20 期までは地図学研究連絡委員会、それ以降は国際委員会 ICA 分科会、地球惑星科学委員会 IGU 分科会 ICA 小委員会により対応してきた。</p> <p>ICA は、地図学全般の研究の振興、国際協力を促す研究の発議と調整、情報・資料交換の促進、専門技術向上、地図学の知識の普及促進を目的とする。</p> <p>国際的視野で若手育成を意識した地図学分野の更なる振興策の議論・推進を目的として ICA 小委員会を設置する。</p>
4	審議事項	ICA 関連の国際会議の招致・運営、代表派遣、ICA への役員推薦、及び地図学の普及に関する諸案件
5	設置期間	2017 年 11 月 24 日～2020 年 9 月 30 日
6	備考	

資料1

第24期分野別委員会分科会・小委員会の委員の決定

<様式>

(地球惑星科学委員会 IGU 分科会 ICA 小委員会)

氏名	所属・職名	備考
春山 成子	三重大学大学院生物資源学研究科教授	第三部会員
石川 徹	東京大学大学院情報学環教授	連携会員
伊藤 香織	東京理科大学理工学部教授	連携会員
小口 高	東京大学空間情報科学研究センター教授	連携会員
氷見山 幸夫	北海道教育大学名誉教授	連携会員
村山 祐司	筑波大学生命環境系教授	連携会員
森田 喬	法政大学名誉教授	連携会員
矢野 桂司	立命館大学文学部教授	連携会員
若林 芳樹	首都大学東京都市環境学部教授	

※委員候補者の並びは、「会員（第一部→第二員→第三部）→連携会員→特任連携会員」（*
それ以下の順番は五十音順）

※特任連携会員は除く

資料 2

23 期 ICA 小委員会の経過と引き継ぎ事項について

□小委員会の開催経過

- (1) 第 1 回 平成 26 年 11 月 25 日
 - ・役員選出
 - ・ICC2019 東京大会開催立候補
- (2) 第 2 回 平成 27 年 11 月 9 日
 - ・8 月に ICC2015 リオ大会
 - ・ICC2019 東京大会開催決定
- (3) 第 3 回 平成 28 年 5 月 16 日
 - ・組織準備委員会の発足
 - ・組織委員会の準備
- (4) 第 4 回 平成 28 年 11 月 30 日
 - *メール審議
 - ・学術会議共同国際会議申請書提出
- (5) 第 5 回 平成 28 年 12 月 3 日
 - ・組織委員会の発足
 - ・実行委員会・幹事会の設置
 - ・運営会社の選定
- (6) 第 6 回 平成 29 年 9 月 17 日
 - ・7 月に ICC2017 ワシントン大会
 - ファーストサーキュラー
 - ブースの設置
 - レセプションの実施
 - ICA 旗の引き継ぎ
 - ・24 期への引き継ぎ事項

地球惑星科学委員会 IGU 分科会・ICA 小委員会（第23期・第6回）議事録

1. 日時 平成29年9月17日（日）12:00～13:00
2. 会場 日本学術会議5階5-D会議室
3. 出席者 小口高、村山祐二、森田 喬、矢野桂司、若林芳樹
欠席者 氷見山幸夫、碓井照子、岡部篤行、有川正俊

4. 議題

1. 前回議事録の確認

資料1の議事録について、第4項の「実行委員長」を「組織委員長」に置き換えることで承認された。

2. ICC2017 ワシントン大会参加報告

資料2（代表派遣報告書）に基づき森田委員長より報告があった。

3. ICC2019 東京大会準備状況

資料3（ICC2019の準備状況）に基づき若林幹事より報告があった。募金活動について補足的な質疑が行われた。

4. 今期活動の総括と次期への申し送り

資料4（ICA小委員会の24期への移行）に基づき森田会長より説明があった。ICC2019東京大会に向けて23期の活動を24期も引き継いで継続させることの必要性を確認し、申し送ることとした。

5. その他

本日の小委員会は今期の最終回であり、今後は議事録承認の場が無いので、議事録を委員にメールで確認の後、委員長に一任することとした。

以上

ICC2019 東京大会の準備状況

1. 広報活動

- ファーストサーキュラーを印刷するとともに、ロゴ入りの缶バッジを作製した。
- ICC2017 ワシントン大会でブースを出展し、サーキュラーや缶バッジ等を配付して宣伝を行った。また、加盟国の代表者を招いてレセプションを開くとともに、閉会式で東京大会宣伝のためのスピーチを行った。
- ポスター（A2版）とチラシ（A4版）を作成し、印刷した。
- ウェブサイトのデザインを決定し、公開した。
- 秋の関連学会やイベントで広報活動を行った。

2. 募金活動

- JNTO に寄付金管理の委託手続きを行った。
- 東京地学協会から今年から二年間でそれぞれ 100 万円ずつの助成金の配分が決定した。
- 協賛金のメニュー、訪問先候補、訪問者の分担などについて検討を行った。
- 募金活動のための趣意書、協賛金メニューを作成し、2018 年 1 月から開始する準備を進めている。

3. 企画

- 大会期間中のアウトリーチ活動、テクニカルカルツアー、ソーシャルイベントについて企画を検討中。
- 開会・閉会式等のアトラクションについては、募金等の収入の状況をみながら検討することになっている。
- 招待講演者の人選を進め、1 月中に決定して依頼する。

4. プログラム

- プログラム・登録委員会が担当する業務について確認した。
- ICC2017 ワシントン大会と同様に、プログラムは印刷版（A5 版）と電子版（アプリ）を作成することになった。要旨・フルペーパーを掲載したプロシーディングスは印刷せず、電子ファイルでウェブやメモリー等に収納して配付する。
- 発表キャンセルへの対応、途上国・若手への財政支援については今後検討する予定。
- 発表申込、参加登録の主なスケジュールについて下記のように決定した。
 - ① 発表，論文関係
 - Call for papers（開始）：2018/7/31
 - Submission of abstract (Track P & B) & full-manuscript (Track B)：2018/11/7
 - Notification of acceptance/ Submission of refereed final manuscript (Track B)：2019/2/13
 - Submission of full papers for online proceedings (Track P)：2019/3/6
 - ② 展示関係
 - Submission interface for exhibition opens：2018/12/12
 - 同上 closes：2019/3/6
 - ③ 参加登録関係
 - Conference registration deadline for presenters: 2019/3/6
 - Advance registration deadline: 2019/3/6

5. その他

- 地理学連携機構の加盟団体には協力依頼を行った（資金的援助ではなくセッション提案や発表申し込みでの協力を予定している）。
- 2018年8月22-26日にICA執行部による会場視察が予定されている。
- これまで幹事会を7回開催するとともに、若手メンバーを加えた拡大幹事会を開催して、新しい企画やアイデアを募った。
- メイン会場の日本科学未来館のスタッフと打ち合わせを行い、大会前後の関連行事の開催可能性について相談した。
- 募金活動の協賛金メニューに関連して、展示ブースの配置とコマ割りを検討した。

以上